

自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.40

「早春の花々は春足だ！ *How fast early spring flowers are!*」

2021年3月10日

3月に入り、「アッ、春の花が咲き始めたナ」と心弾む思いで道を歩いていたら、数日後には次々と春の花々が咲き出し、目をひらけば周囲を飾っている。まさに俊足、これぞ春足？ポーと春眠をむさぼってんじゃねーよ！」とテコちゃんに叱られた。

早春を代表する花と言えば、やはりクロッカス？。春の蘭（シュンラン）は例年よりも1ヶ月早く咲いたので驚いた。黄金色の花が印象的な立金花。はじめて見たのは、50年前の5月末の尾瀬ヶ原。遅い雪に見舞われたが、山の早春時だったのだろう。

水仙は1月から咲いていたが、3月になると様々な水仙が地面を飾るようになった。大きく分類すると、ラッパとニホンズイセン属に分けられるが、色、形が異なる水仙が存在する。学名は、ギリシャ神話のナルシソス（自己愛）に由来し、中央に紅色の輪郭がある口紅水仙が彼の生まれ変わりとされている。

ボケは、花名の響きとは大違い、春の到来を盛り上げている魅力ある花だ。花が枝を隠すほど集合して咲く種類もあるが、華やか過ぎて魅力を下げている嫌いがある。沈丁花は春の香りを振りまいているようで、春の演出には不可欠な花だと思う。

木の先に真っ白な花を青空に手を広げたように咲くモクレン(木蓮)とコブシ(辛夷)も早春を飾る花と言えるだろう。では、その違いは？木蓮は花びらを包むようにして咲き、その数は9枚、辛夷は花びらを広げて咲き、数は6枚。どちらも傷つきやすく、強風に当たると傷跡が茶色になる。今年は春の風が穏やかで、美しい花を長い間楽しませてくれている。

サンシュユも典型的な早春の花で、卒業式の時期が満開という印象が脳に焼き付いている。しかし、今年はなぜか、かなり早い。宮崎県民謡「ひえつき節」を思い出す人は？日本人の生活と伝統を大事にしている渋い人だ、と想う。

枝垂れ尾のように咲くアセビの登場もあっと言う間であった。学名から日本原産と分かる。なんと英名は Japanese Andromeda(エチオピアの女王の名)。馬が有毒の葉を食べて酔った様になったという和名よりも興味深い。